

平成25年5月31日発行

No. 5

発 行

島根県立益田翔陽高等学校同窓会

事務局
赤陵会館内益田市あけぼの東町13-1
TEL・FAX 0856-23-1619

益田翔陽高等学校同窓会

会報

平成25年度

第5回 益田翔陽高同窓会定例総会



同窓会報発行に寄せて

旧県工同窓会三代会長(一期卒)
益田翔陽高校同窓会副会長

田 原 修

『飛 翔』
ひとりひとりが輝くとこゝ心をひとつに

新緑の候、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は翔陽高校同窓会に格別のご理解とご協力を賜り、ありがたくお礼申し上げます。

昨年に続き今年は、旧県工同窓会について寄稿の依頼がありましたので少しあげさせていただきます。

県工同窓会は昭和四十一年三月に発足しましたが、「同窓会つて何をするの」と疑問多いままに先生から「益田市内に就職する者が役員」との事で、初代

会長に松根義美氏・私も市内就職で「事務局長」を拝命となりました。それ以来同窓会と縁が切れず、「創立二十周年記念事業」を前に、「一期生も良い年になつたからそろそろ同窓会として活動を……」と学校側から叱咤激励があり、「同窓会を何とかしよう」を合言葉に同窓会執行部の再編で三代会長を拝命しました。副会長に尾崎・大久保・北浦氏にお願いし、初仕事として「同窓会会員名簿の作成」でしたが、名簿作成前の調査からしなくてはならない状況で「毎晩仕事終了後夜学校に集まり、卒業生の父兄宅に電話をかけて所在を調査」し、同窓会の会員名簿を完成しました。今考えると「よく出来たなあ」・「執行部のみんなも良く頑張ったなあ」と感心すると同時に、今でも関係者のご努力に敬服しております。

次は、同窓会の目的である「会員相互の親睦・連絡強調」を図るために「県工同窓会報の年一回発行」でした。

同窓会報をすべての会員へ郵送しました。当時は宛名書も全て「手作業」でした。役員は仕事を終わってから夜学校に集まりカッパラーメンを食べながら遅くまで宛名書をやつしたこと、今はなればなつかしく良い思い出です。のちに県工同窓会報は県工閉校まで執行部の皆さんのご努力により継続されました。

このようにして、発足後二十年(成人)で同窓会らしき活動が出来るようになったことを三十年経過した今、とても懐かしく思い出します。

次は「支部創設」と言う時に仕事の関係で益田を離れることとなり、会長になつたことを三十年経過した今、ともに懐かしく思い出します。

しかし「翔陽高校」となり同窓会も合併し「翔陽高校同窓会」になつた事を知らない方が多く、その都度「同窓会の栄」等で説明し理解していただきました。

そうした準備役員の皆さん方のご協力とご努力により、計画通り平成二十三年七月大阪梅田弥生会館で「益田翔陽高校同窓会関西支部設立総会」を開催されました。これもひとえに、関西支部役員と関係各位のご苦労とご協力の賜と感謝しております。

★益田翔陽高校同窓会
関西支部設立の思い
平成十八年「同窓会の合併」の話がでた頃に、海外勤務から大阪本社勤務となり、同窓会執行部からの連絡で事務がました。

県工側は、活動はしてなかつたが関西支部があつたのでそれを足掛かりとして、支部長他執行部と連絡を取りながら、また一方では近畿益田会で新たに知り合つた榎谷氏(二期生)が、県工卒業生に声をかけながら協力を呼びかけました。苦労したのが産業高校側です。

近畿益田会で知り合つた、松本氏(昭和三十六年卒)・大久保氏(昭和三十七年卒)に声をかけ、「同級生」に呼びかけをお願いした。また波田地会長からも関西地区の同級生に設立への協力をお願いして頂きました。

二年の年末に「県工・産高合同の設立準備役員会」の初会合を行い、設立総会を「平成二十三年七月」で決定しましたが、「卒業して五十年もなるに今更関西支部をなぜ」とか「何の目的で」の声もありました。また少子化により産業高校がなくつたこと、県工と産高が合併し「翔陽高校」となり同窓会も合併した。その後、「翔陽高校同窓会」になつた事を知らない方が多く、その都度「同窓会の栄」等で説明し理解していただきました。

今年の総会前日には、「第一回同窓会出来たので、次は関西支部」との声で、波田地会長から「君が在大阪中に必ず」と叱咤激励もあり早々に設立準備に入りました。

県工側は、活動はしてなかつたが関西支部があつたのでそれを足掛けかりとして、支部長他執行部と連絡を取りながら、また一方では近畿益田会で新たに知り合つた榎谷氏(二期生)が、県工卒業生に声をかけながら協力を呼びかけました。苦労したのが産業高校側です。

近畿益田会で知り合つた、松本氏(昭和三十六年卒)・大久保氏(昭和三十七年卒)に声をかけ、「同級生」に呼びかけをお願いした。また波田地会長からも関西地区の同級生に設立への協力をお願いして頂きました。

二年の年末に「県工・産高合同の設立準備役員会」の初会合を行い、設立総会を「平成二十三年七月」で決定しましたが、「卒業して五十年もなるに今更関西支部をなぜ」とか「何の目的で」の声もありました。また少子化により産業高校がなくつたこと、県工と産高が合併し「翔陽高校」となり同窓会も合併した。その後、「翔陽高校同窓会」になつた事を知らない方が多く、その都度「同窓会の栄」等で説明し理解していただきました。

今年の総会前日には、「第一回同窓会出来たので、次は関西支部」との声で、波田地会長から「君が在大阪中に必ず」と叱咤激励もあり早々に設立準備に入りました。

県工側は、活動はしてなかつたが関西支部があつたのでそれを足掛けかりとして、支部長他執行部と連絡を取りながら、また一方では近畿益田会で新たに知り合つた榎谷氏(二期生)が、県工卒業生に声をかけながら協力を呼びかけました。苦労したのが産業高校側です。

☆第八十五回記念選抜
高等学校野球大会出場
関西支部を設立時に「母校が甲子園出場

出場」する時に「支援出来る体制が必要」と言つて、発足後一年半年で甲子園が実現した事は何か不思議な気持ちはあります。

また、甲子園出場で「県工・産高」の親睦を深め、「良い機会であると思っています。

最後に今年度(第五回)総会の盛会を祈念し、同窓会の益々の発展と皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

関西支部を設立時に「母校が甲子園出場」も開催される等着実に翔陽高校同窓会の目的である「会員相互の親睦を深める」良い機会であると思っています。

今年の総会前日には、「第一回同窓会出来たので、次は関西支部」との声で、波田地会長から「君が在大阪中に必ず」と叱咤激励もあり早々に設立準備に入りました。

県工側は、活動はしてなかつたが関西支部があつたのでそれを足掛けかりとして、支部長他執行部と連絡を取りながら、また一方では近畿益田会で新たに知り合つた榎谷氏(二期生)が、県工卒業生に声をかけながら協力を呼びかけました。苦労したのが産業高校側です。

近畿益田会で知り合つた、松本氏(昭和三十六年卒)・大久保氏(昭和三十七年卒)に声をかけ、「同級生」に呼びかけをお願いした。また波田地会長からも関西地区の同級生に設立への協力をお願いして頂きました。

二年の年末に「県工・産高合同の設立準備役員会」の初会合を行い、設立総会を「平成二十三年七月」で決定しましたが、「卒業して五十年もなるに今更関西支部をなぜ」とか「何の目的で」の声もありました。また少子化により産業高校がなくつたこと、県工と産高が合併し「翔陽高校」となり同窓会も合併した。その後、「翔陽高校同窓会」になつた事を知らない方が多く、その都度「同窓会の栄」等で説明し理解していただきました。

今年の総会前日には、「第一回同窓会出来たので、次は関西支部」との声で、波田地会長から「君が在大阪中に必ず」と叱咤激励もあり早々に設立準備に入りました。

県工側は、活動はしてなかつたが関西支部があつたのでそれを足掛けかりとして、支部長他執行部と連絡を取りながら、また一方では近畿益田会で新たに知り合つた榎谷氏(二期生)が、県工卒業生に声をかけながら協力を呼びかけました。苦労したのが産業高校側です。

現況報告

益田翔陽高校

校長 山藤哲夫



平素から益田
翔陽高校の教育
活動に温かいご
理解とご支援を
賜り厚くお礼申
し上げます。

また、本校野

球部が三月甲子園で開催された第八十
五回記念選抜高等学校野球大会に出場
した際には、多額のご寄付や温かいご
声援を賜り感謝いたしております。前
年度も四月の人事異動により、十
七名の教職員が着任してまいりました。

翔陽高校のために力を発揮してくれる
方々をお迎えし、入学式を盛大に挙行する
ことができました。式場での新入生四学科百
四十九名は、緊張した様子でしたが、その中
にも夢や希望に満ち溢れているように
感じられました。私から新人生に次
ことについて話をしました。地域から
期待される本校のおかれている立場や、
春爛漫の四月九日、同窓会役員の方々
を始め多くの来賓の方々をお迎えし、
業高校の卒業生合わせて二万五千名あ
まりが本校の応援団になつていただい
てること。また、「学習や実習をと
おして、学ぶ喜びや魅力を見いだし、
社会に貢献できる人材」になるために、
規律ある行動をとる」夢の実現に向
け、自らの目標を定める「相手を尊
重し、お互いを高める」の三項目につ
いて努力し、有意義な高校生活を送る
よう話をしました。新入生も先輩達を
見習い努力してくれるものと思います。
さて、昨年度の本校の教育活動を振
り返り、主なもの皆さんに報告した
いと思います。

○ 地域との交流で教育奨励賞を受賞
電気科を中心に行っている電気技術
ボラ」が第二十七回時事通信社教育獎
励賞の努力賞を受賞しました。地域の
独居老人宅や公共施設での電気配線の
保全や照明機器の点検を行い、最近で

○ 第八十五回記念選抜高等学校野球
大会21世紀枠出場

一月二十五日、第八十五回記念選抜
高等学校野球大会選考委員会から二十
一世紀枠での出場決定の連絡をいただ
きました。校長室で連絡を待つておら
れた波田地同窓会長様や野球部関係者
の皆様と歓声を上げて共に喜びました。

この決定は、野球部が秋の県大会で優
勝し中国大会に出席したことや、普段
から技術練習や体力づくりだけでなく、
礼儀を重んじ挨拶運動を積極的に取り
組んだこと。また、同窓生や地域の方々
の協力を得ながら行つてきた本校のキャ
リア教育などが、高く評価された結果
だと思つております。

二月一日には、選抜大会出場に向け
同窓会、野球部後援会、野球部OB会
PTA、野球部保護者会による甲子園
出場後援会が組織され、波田地会長様
を始め役員の皆さんに募金活動を行つ
ていただき、全校応援をはじめ大会参
加経費を捻出していただきました。大
会では、甲子園の雰囲気や相手の聖光
学院の強さに圧倒された感はありません
たが、選手は自分たちの持てる力を發
揮し、清々しい翔陽野球を見せてくれ
たと思つています。また、生徒達は後
援会や地域の方々と一緒に甲子園で応
援できることで、目標に向け一致協力
してやりいただき改めて感謝申し上げ
ます。

○ 最後に
本校は、益田産業高校、益田農林高
校、益田工業高校の伝統を継承し、
地域に根ざし、愛され、「元氣を与え
る学校」を目指しております。今後とも
ご支援いただき改めて感謝申し上げ
ます。

翔陽高校の教育活動をつけてお
ります。同窓会を始め、多くの皆さん
にご支援いただき改めて感謝申し上げ
ます。

○ 地域との交流で教育奨励賞を受賞
電気科を中心に行っている電気技術
ボラ」が第二十七回時事通信社教育獎
励賞の努力賞を受賞しました。地域の
独居老人宅や公共施設での電気配線の
保全や照明機器の点検を行い、最近で

心掛けたいこと

益田翔陽高校

教頭 吉岡正弘



益田翔陽高校
に二度目の赴任
をして一年と二
ヶ月が過ぎまし
た。本校野球部
を飾り、中国大会に出場し、陸上部
が新人大会において五年ぶりの優勝
を達成しました。文化部では、工作部で中国
一の皆様と歓声を上げて共に喜びました。
この決まりは、野球部が秋の県大会で優
勝し中国大会に出席したことや、普段
から技術練習や体力づくりだけでなく、
礼儀を重んじ挨拶運動を積極的に取り
組んだこと。また、同窓生や地域の方々
の協力を得ながら行つてきた本校のキャ
リア教育などが、高く評価された結果
だと思つております。

二月一日には、選抜大会出場に向け
同窓会、野球部後援会、野球部OB会
PTA、野球部保護者会による甲子園
出場後援会が組織され、波田地会長様
を始め役員の皆さんに募金活動を行つ
ていただき、全校応援をはじめ大会参
加経費を捻出していただきました。大
会では、甲子園の雰囲気や相手の聖光
学院の強さに圧倒された感はありません
たが、選手は自分たちの持てる力を發
揮し、清々しい翔陽野球を見せてくれ
たと思つています。また、生徒達は後
援会や地域の方々と一緒に甲子園で応
援できることで、目標に向け一致協力
してやりいただき改めて感謝申し上げ
ます。

○ 最後に
島根県は県内の高校生に対して職業
資格取得者等顕彰制度をもうけていま
す。本校では、将来のために資格取得
を奨励しており、昨年度は危険物取扱
者乙種全類、第一種電気工事士、機械
保全技能士、三級フラー装飾技能士、
測量士補等の高度資格を取得し、九十
三名（県内三百七十六名）の者が県か
ら表彰を受けました。

島根県は県内の高校生に対して職業
資格取得者等顕彰制度をもうけていま
す。本校では、将来のために資格取得
を奨励しており、昨年度は危険物取扱
者乙種全類、第一種電気工事士、機械
保全技能士、三級フラー装飾技能士、
測量士補等の高度資格を取得し、九十
三名（県内三百七十六名）の者が県か
ら表彰を受けました。

○ 最後に
本校は、益田産業高校、益田農林高
校、益田工業高校の伝統を継承し、
地域に根ざし、愛され、「元氣を与え
る学校」を目指しております。今後とも
ご指導、ご鞭撻をいただきますよう
お願い申し上げます。

考えようとしています。来年度は、校
内だけでなく校外の方々の意見も集約
して効果のある学校を目指していま
す。次に、心に残る情報発信とは？学校
の教育活動の中で真善美に関する情報
を意図的に発信することと考えます。
生徒や教職員の言動の中に心が揺り動
かされる出来事があります。「百聞は
一見に如かず」。人に伝えてくるよう
に見えない部分を数字や映像、写真等
で表現します。朝、一日の出来事があ
ります。文化部では、工作部で中国
全国農業クラブ鑑定競技会で優秀賞、
吹奏楽部の2年連続県大会金賞、JR
C部は県大会優秀賞（全国総文祭出場）
を獲得するなど多方面で活躍してくれ
ました。今年度も全国、中国大会出場
を目指して努力していく所存です。引
き続き応援をしていただきますよう、
お願い申し上げます。

○ 職業資格取得者等顕彰制度受賞者
県一
島根県は県内の高校生に対して職業
資格取得者等顕彰制度をもうけていま
す。本校では、将来のために資格取得
を奨励しており、昨年度は危険物取扱
者乙種全類、第一種電気工事士、機械
保全技能士、三級フラー装飾技能士、
測量士補等の高度資格を取得し、九十
三名（県内三百七十六名）の者が県か
ら表彰を受けました。

島根県は県内の高校生に対して職業
資格取得者等顕彰制度をもうけていま
す。本校では、将来のために資格取得
を奨励しており、昨年度は危険物取扱
者乙種全類、第一種電気工事士、機械
保全技能士、三級フラー装飾技能士、
測量士補等の高度資格を取得し、九十
三名（県内三百七十六名）の者が県か
ら表彰を受けました。

島根県は県内の高校生に対して職業
資格取得者等顕彰制度をもうけていま
す。本校では、将来のために資格取得
を奨励しており、昨年度は危険物取扱
者乙種全類、第一種電気工事士、機械
保全技能士、三級フラー装飾技能士、
測量士補等の高度資格を取得し、九十
三名（県内三百七十六名）の者が県か
ら表彰を受けました。

島根県は県内の高校生に対して職業
資格取得者等顕彰制度をもうけていま
す。本校では、将来のために資格取得
を奨励しており、昨年度は危険物取扱
者乙種全類、第一種電気工事士、機械
保全技能士、三級フラー装飾技能士、
測量士補等の高度資格を取得し、九十
三名（県内三百七十六名）の者が県か
ら表彰を受けました。

平成25年度 第5回 益田翔陽高校同窓会 定例総会 プログラム

◎受付	サンパレス益田ロビー	9:00~
◎定例総会	2階	10:00~
1. 開会宣言		
2. 黙祷		
3. 総会実行委員長挨拶		
4. 同窓会長挨拶		
5. 祝辞・招待者紹介、祝電披露		
6. 議長選出・議事手続		
7. 議事		
第1号議案	会務報告について	
第2号議案	平成25年度事業計画・収支予算(案)	
	承認について	
第3号議案	その他	
8. 閉会宣言		
9. 記念講演		

.....会場移動・休憩.....

◎祝賀懇親会	12:00~
1. 開宴のことば	
2. 実行委員長挨拶	
3. 乾杯	
4. 喜寿表敬品記念品贈呈式	
5. アトラクション	
6. 閉宴のことば	
◎引継ぎ式	14:30~
1. 開式のことば	
2. 校歌齊唱	
3. 同窓会旗・ハッピーリン	
4. 次期当番期生(昭和62年卒)代表挨拶	
5. 万歳三唱	
6. 閉式のことば	

益田市をよく見て考えてみると、古くから農林高校卒業生、益田工業卒業生の方々が沢山おられる町です。その方が支えてこられたからこそあります。この翔陽高校同窓会を今後に継続して行くことが大切だと思います。この翔陽

として、翔陽高校野球部のために、波田地会長をはじめとする役員方の大きなサポートがあると聞いております。翔陽高校OBの方々の絆、団結力と言葉のことは、伝統になつてきている翔陽高校同窓会を続けてこられてきたからこそあります。だからこそ、この翔陽高校同窓会を今後に継続して行くことが大切だと思います。この翔陽

午前の部	日程	会場
一〇時~一一時 『定例総会』	九時 総会受付	サンパレス益田

◆基本構想◆
一、本年度の益田翔陽同窓会定例総会を六月九日(日)に開催する。
二、この定例総会は、昭和六十一年卒業の当番期生を主軸に構成する「平成二十五年度総会実行委員会」が主催する。
三、総会は、益田同窓会で開催されていた「自主・開放・祭り型」形式を継承する。

四、総会開催資金は、総会参加会費収入より調達する。
五、本年度の総会引継式の席上で、次年度総会に関する一切の権限を、次期当番期生に引き継ぐ。

◆実行計画大綱◆
一、総会日程及び会場

二、総会スローガン
(メイン)『飛翔』
(サブ)『ひとりひとり輝くとき
～心をひとつに～』
三、総会参加動員計画
(1)会員の総会参加者が幅広く多数得られるよう、ボスター宣伝と券の売りさばきに努める。
(職域は各個人の勤務先に依頼する。本会の協力を得る。)
(2)会員券は、各科に割り当てとする。
(3)喜寿(七十七歳)を迎えた総会出席者の先輩に「表敬記念品」を贈呈する。

午後の部	日程	会場
一二時〇〇分~ 一四時〇〇分	祝賀懇親会	サンパレス益田
一四時三〇分~ 一五時〇〇分	引継ぎ式	

実行委員長

(昭和61年園芸科卒業)



本年の実行委員を代表して一言ご挨拶を申し上げます。まして、波田地三男会長をはじめとする同窓会事務局役員の皆様には、いろいろとご指導いただ

き、ありがとうございます。また、今日窓会を開催するにあたり窓会を準備するためにご尽力をいただき、心から深く感謝を申し上げます。私は、昨年の先輩の方の「絆」の思いを引き継いで、このテーマといたしました。この日の準備のためにご尽力をいたましたが、今回で第五回となる翔陽高校同窓会。私たちが、それぞれ別々の高校に通っていましたが、この日の準備のためにご尽力をいたしましたが、この日の準備のためにご尽力をいたしましたが、今回も翔陽高校同窓会をきっかけに、益田農林、益田工業の同級生が集まり、昨年より一つの目標的に向かい心をひとつに取り組んでまいりました。昨年同様ですが、今までに無い事です。今回も翔陽高校同窓会をきっかけに、益田農林、益田工業の同級生が集まり、昨年より一つの目標的に向かい心をひとつに取り組んでまいりました。昨年同様ですが、今までに無い事です。また、同級生にとっては、大きな経験になつたと思っております。この先の私たちのいろいろな活動にとつても非常に大きな経験をさせていただいたと思っております。さて、今年は、第八十五回記念選抜高校野球大会(二十一世紀枠)で初の夢の切符を手に入れた記念する年になりました。卒業生としてまた、益田市としても、喜ばしい事だつたと思います。また、翔陽高校野球部のメンバーが地元(益田市)の子供達で構成されたチームだつたと言ふ事も素晴らしい事だつたと思います。別々の中学校から集まり一つの目標に皆で力を合わせて行く事、この事は、子供達の将来、人生の中では沢山ある事だと思います。翔陽高校の子供達にとっては、よい経験になつたと思っております。また、益田市としても、喜ばしい事だつたと思います。また、翔陽高校野球部のために、波田地会長をはじめとする役員方の大いなサポートがあつたと聞いております。翔陽高校OBの方々の絆、団結力と言葉のことは、伝統になつてきている翔陽高校同窓会を続けてこられてきたからこそあります。だからこそ、この翔陽高校同窓会を今後に継続して行くことが大切だと思います。この翔陽

高校同窓会には、たくさんの方がいます。一人が、ふるさとを見つめ直し、地元を少しでも、元気なまちにする為には何ができるか?小さな事から、少しずつ出来ることをやつて行けばと思いません。また、毎年、同窓会の日が来るたびに皆さんにも思っていただければと思いま

す。メイントークにあるように『飛翔』『ひとりひとり輝くとき』この思いは、昨日の先輩の方の「絆」の思いを引き継いで、このテーマといたしました。今回も翔陽高校同窓会をきっかけに、益田農林、益田工業の同級生が集まり、昨年より一つの目標的に向かい心をひとつに取り組んでまいりました。昨年同様ですが、今までに無い事です。また、同級生にとっては、大きな経験になつたと思っております。この先の私たちのいろいろな活動にとつても非常に大きな経験をさせていただいたと思っております。さて、今年は、第八十五回記念選抜高校野球大会(二十一世紀枠)で初の夢の切符を手に入れた記念する年になりました。卒業生としてまた、益田市としても、喜ばしい事だつたと思います。また、翔陽高校野球部のメンバーが地元(益田市)の子供達で構成されたチームだつたと言ふ事も素晴らしい事だつたと思います。別々の中学校から集まり一つの目標に皆で力を合わせて行く事、この事は、子供達の将来、人生の中では沢山ある事だと思います。翔陽高校の子供達にとっては、よい経験になつたと思っております。また、益田市としても、喜ばしい事だつたと思います。また、翔陽高校野球部のために、波田地会長をはじめとする役員方の大いなサポートがあつたと聞いております。翔陽高校OBの方々の絆、団結力と言葉のことは、伝統になつてきている翔陽高校同窓会を続けてこられてきたからこそあります。だからこそ、この翔陽高校同窓会を今後に継続して行くことが大切だと思います。この翔陽

◆平成25年度(第5回)益田翔陽高校同窓会企画調整会議役員名簿◆

役職名	氏名	卒業科
委員長	柳井 康夫	園芸科
副委員長	長谷川 健	農業科
	吉村 見夫	農業土木科
	澤江 等	園芸科
事務局長	吉田 健三	電気科
副事務局長	多田 穎	農業土木科
	岡崎 賢一	農業土木科
	大浴 徳男	機械科
会計長	水津 誠司	農業科
会計次長	中島 和美	家政科
	椋 和美	食品化学科

